

行った主な活動

2回目ジベレリン処理

2回目のジベレリン処理は1回目の2週間後に行う。種無し栽培では、細胞分裂を促すホルモンが種子から発生しないため、人為的に植物成長調整剤をつけて、果実を肥大させている。

らくらくカップというジベレリン処理専用の道具があり、液が房全体にまんべんなく付き、垂れた液はカップ内に戻り再び噴射口から出されるので、液が無駄にならない構造になっている。薬剤の費用が年々高騰しているので、このような低価格でコスト削減にもなる機械は積極的に導入していきたいと感じた。



笠かけ

日焼け防止に笠をかけた。ぶどうは強い日差しに当たると写真右のように日焼けを起こしてしまう。

また笠をかけることで、鳥や獣からの食害も抑えることができる。



活動を行った感想など

房がぶどうらしい形になってきて、収穫が近づいていることを感じながら毎日楽しく作業している。また、すでに鳥や獣にかなりの量のぶどうを食べられてしまっているので、電柵や罟の設置など獣対策を考えなければいけない。

今後の目標など

ある地域で倉庫付きの住まいを借りられそうなので、その近くで農地を探している。貸してもらえそうな畑もあったが、住まいから離れていたり、設備が十分でなかったり、小規模だったりして条件が合わなかった。

農地が決まるまで先は長くなりそう。探す範囲を広げたり、自分で新設することも視野に入れて考えていこうと思う。



7月報告書

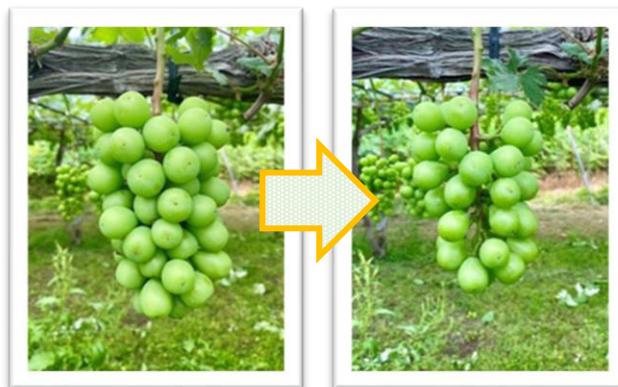
常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

摘粒

摘粒は房の形を決めるとても重要な作業の1つ。1房にすべての実をつけてしまうと粒同士が押し合って潰れてしまうため、房の中に潜り込んでいる粒や下向き上向きの粒をハサミで切り落とす。粒がまだ小さい状態の時に、大きくなることを想像しながら切るので、ぶどう栽培の中で最も難しく神経を使う作業。

摘粒が上手な人のつくるぶどうは芸術作品のような綺麗な見た目に仕上がる。



袋掛け

病虫害予防のために袋をかけた。口をしっかりと閉めないと虫が入ってきてしまうので、緩くならないように気をつけた。

袋は白や透明、窓付きなど様々な種類があって品種ごとに使い分けた。



活動を行った感想など

摘粒はこの1粒を切るかどうか悩んで時間がかかってしまった。切りすぎかなと思ったところもあったが、大きくなった出来を見てちょうど良い粒がまとまった房になっていたので安心した。

収穫したぶどうにカイガラムシがついている房があった。おそらく袋をかけた後に閉め口から入ったと思われるので、もう少しキツく締めることを心がけて袋をかけるようにする。

※カイガラムシは、貝殻を背負ったような見た目をしている。カメムシの仲間、植物の汁を吸って葉や枝をダメにしてしまう。

今後の目標など

7月末から経営スタートアップ講座が始まった。今までなんとなくこういう経営がしたいという理想はあったが、講座を通して会社の経営理念を具体的に考え、それを言語化したり、ケーススタディや中期目標の立て方を学んだりして、独立後の経営をする上でとても重要な勉強をすることができた。

最終的に経営計画書を書いてプレゼンテーションで発表するので、それに向けて受講や課題提出をしていく。



8月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

■ 反射シート張り

ぶどうの房全体に光が当たるように地面に反射シートを張った。太陽の光が当たることでぶどうは色づきや食味が良くなる。収穫前の忙しい時期だが、この一手間を惜しまないことが良いぶどう作りにつながるのだと感じた。



■ 収穫、販売

直売所がオープンして収穫と販売が始まった。初収穫されたぶどうを見て、この1年間の苦労を思い出し、嬉しさと感動で目が潤んだ。

販売時期の仕事は、収穫されたぶどうを傷みがないか直売所内で確認し販売用の袋へ詰める替える作業や、ぶどう狩りやぶどうを買いに来られたお客様への接客をした。



活動を行った感想など

収穫と販売が始まり、今年も無事にぶどうを収穫できたこと、研修先の農園で色々な仕事を体験させてもらえたこと、買いに来てくれるお客様がいること、様々なことに感謝の気持ちが込み上げてきた。

最初の1ヶ月は、この1年間の努力が報われたような気持ちで毎日楽しく夢中で仕事をしていたのだが、次第に疲れが溜まっていき仕事集中力が切れてしまうことが増えてしまった。忙しい中での体調の整えかたを身につけて、ベストな状態で仕事に取り組めるようにしたい。

今後の目標など

販売は10月いっぱいまで行うので、今はとにかく終盤まで体力と集中力が保てるように、よく働き、よく食べ、よく寝て、体調を崩さず最後まで駆け抜きたい。



9月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

収穫

本来であれば、白色などの色付きの袋がかかっているぶどうは、収穫前に袋を開けて着色の具合を確認してから収穫する。しかし、今年は好天に恵まれ、さらに夜温が低かったこともあり、特に巨峰は例年より色づきがよかった。そのため収穫前の着色確認作業を省略でき、収穫作業のスピードが速く楽だった。その他の品種も品質が良く、研修先では今までで一番出来が良い年だったそう。



販売

研修先では約30品種のぶどうを栽培しており、特に9月は最も多くの品種が店頭に並ぶ時期である。そのため、お客様に品種ごとの味や食感の違いを上手く説明できるよう、事前に情報を整理して接客に臨んだ。

やはり常陸太田では巨峰と常陸青龍が圧倒的な人気で、次いでシャインマスカットという印象を受けた。しかし、富士の輝や真沙果といった、まだ全国的な知名度の高くない品種についても、知っているお客様が多くいらっしゃり、さすがはぶどうの産地だと、改めて実感した。



活動を行った感想など

お彼岸のころには、来客数のピークを迎え、多忙を極めた。この時期はいつもの農園でも家族やパートさんたちの支えがあって経営が成り立っていることを強く感じる。これから自分がやろうとしていることも決して一人では成し遂げられないことと理解しているので、いずれ自分が指導する立場になることを意識しながら、師匠の立ち振る舞いなどを見習っていきたい。

今後の目標など

販売も終盤となり、これから自分が研修作業以外に使える時間が増えてくると思う。今後を見据えた活動（具体的には農地探し、農園等視察、栽培や経営の学習）を積極的に行い、有意義な時間活用をしていきたい。



10月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

ぶどう狩り案内

ぶどう狩りに来たお客様にぶどう狩りのシステム、
獲れる品種、食べ頃のぶどうの見分け方などを説明し
園内を案内した。わかりやすく味の説明をしたり、お
子様の収穫のサポートをしたり、家族写真を撮ってあ
げたりなど、お客様に楽しんでもらえるよう工夫した。



朝市出展

活動報告を兼ねて朝市にぶどう販売で出店した。
予想通り800円のカップはすぐに売り切れて3,000
円の房だけが最後残ってしまったことを受けて、
出展するイベントのタイプによって販売方法を考
えなければいけないと改めて実感した。また、ぶ
どうを買った後にパネルを掲示していることを案
内すると見てくれた方が多くいた。最終的にぶど
うを完売できたことはもちろん嬉しかったが、目
的である市民の皆さんに地域おこしの活動を知っ
ていただくことも少しはできたと思うのでよかつ
た。



活動を行った感想など

巨峰と常陸青龍のぶどう狩りは色付きの袋がかかっていてお客様は外から見づ
らく、ぶどう狩りをしても袋を開けると傷んでいる場合が多かった。今年は特に
暑さで痛みが早かったので、ぶどう狩り用にとっておいた巨峰の3分の2は廃棄
となってしまった。

ぶどう狩り用のぶどうは袋はかけず傘だけにするか、透明の袋をかけるなど、
やり方を工夫しなければいけないと思った。

朝市については来年以降もう少し早い時期に出店して、ぶどう
と梨を両方販売したり、ゆっくりパネルを見る時間がない方のた
めにパネルの資料をまとめた冊子を渡したりするなど改善の余地
があると思った。



11月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

ビニール張り替え

古くなったビニールを剥がして、新しいビニールに張り替えた。4~5年で張り替えになるが、同じ年に全てのハウスのビニールを張り替えるのは大変なので、研修先では毎年1カ所ずつ張り替えられるように作業時期がずらされている。



葉っぱ焼却

落ちたぶどうの葉っぱには、病原菌が残っている可能性があるため、燃やして処分をした。研修先農家では、ハウスの中で燃やしたため、炎が上がりすぎて芽が焼けないように気をつけた。

葉っぱをハウスの外に持ち出すのは大変だが、ハウス内で燃やすのは、熱がぶどうにも伝わるので生育に影響が出そうで少し心配だった。自分でやる時は違う処分方法を考えたい。



活動を行った感想など

11月の初旬で販売が終了して売店の片付けをしている最中に体を痛めてしまった。販売は終わったがビニールの張り替えや剪定などまだまだやることはたくさんあるので、体の調子を整えて冬の作業に取り掛かりたい。

冬の休みが取れる間に、小型建設機械などの作業資格をとりたい。

